第2回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 令和6年3月25日(月) 18:30~20:30
場 所 中札内村役場会議室1
出席委員 金澤和彦、片山祐二、下埜智加、歌野裕美、渡部弘正、林理央、柴田裕貴也
欠席委員 なし
事務局 総務課長補佐 下浦強、総務課主査 竹村幸二
景観アドバイザー キタバ・ランドスケープ代表 斉藤浩二
オブザーバー パシフィックコンサルタンツ(PCKK) 宮崎栄一郎、原彩菜、大西実花

議 事

1 開 会 18:30

— 竹村主査より開会のあいさつ —

2 会長挨拶

— 会 長より本日の協議内容の概要について説明 —

3 協議事項

— 宮崎 資料1に基づいて報告 —

(PCKK 宮崎) ワークショップでは、農業に携わっている方々にも各班に入ってくださいようしました。また、ワークショップの前に行ったアンケート調査では、村民の意見をよく反映させながら進めてほしいという指摘もあったので、村の広報誌による村民への呼びかけも行ったうえで実施しています。利害が一致しないような話題もありましたが、意見が衝突するというよりは、みんなで一緒に考えていこうという姿勢で意見交換が進んだ印象を持っており、有意義な意見交換の場になったと考えています。

資料1の内容について、補足や不明点等がありましたらご意見等いただけたらと思います。

(会 長) 「活かしたい景観」「大切にしたい景観」には、防風林が入っていない結果となっていますが、これは、防風林を活かすといっても、どう活かすのかのイメージが湧かないからだと思います。しかし、防風林が中札内村の魅力の1つになっていることは間違いなく、景観計画を考える上で大切な要素になってくると思います。

(斉藤先生) 私が欠席した第1回の景観まちづくり委員会の資料を見ると、PCKKが現地調査をしたうえで景観資源を整理しているということだと思いますが、整理の中で、パスの要素を拾っていないと思います。ケヴィン・リンチの『都市のイメージ』では、パス・エッジ・ディストリクト・ノード・ランドマークという要素が示されていますが、そのパスの要素が足りないと感じました。図らずもワークショップの中で、参加者から農道や国道などのパスの話が出ており、また、ワークショップの閉会時には竹村さん

が「今まで意識していなかった農道という視点に気づかされてよかった」と発言されていたように、農道というパスは面白い視点だと思います。他にも、メインストリートの国道についても、現状では景観に考慮していないようなシラカバの伐採がされており、もっと景観をよくしていけるのではないかという思いもあります。

もう1つ大事なことは、旧国鉄の軌道線跡の中の通りが散歩道や通学路として生活の中で使われる道になっていて、また、その道路上には小中学校や文化創造センター、鉄道記念公園があり、村民にとって大切なパスの要素になっているということです。地方の町で、このようなパスを持っている町はほとんどなく、このような場所をまちななかでも増やしていこうという考え方が大事で、「町中にも緑を」という意識が必要です。例えば、役場周辺にも緑がなく寂しい状態で、周りに樹木をきちんと設えるべきです。それと同様に、農地や人が住む場所でも、同様の意識が必要であるということです。農家だけに耕地防風林を残してほしいという要望を持つのではなく、自分たちの周りについても考え、例えば、国道のシラカバはあのままではいけない等、町の人々がきちんと声を挙げていくべきだと感じています。

確認になりますが、公益的機能別施業森林の快適環境形成機能（中札内村森林整備計画より）で示されている、「農村環境保全林（中札内村独自ゾーン）」は、どのように設定したのでしょうか。また、本業務内で行うかはさておき、現状の耕地防風林についてもどこにどの程度残っているのかという村全体のカルテを作成する必要があると思います。

(竹村主査) 「農村環境保全林（中札内村独自ゾーン）」について、確認してみます。

(PCKK 原) 耕地防風林については、GIS で把握できる範囲ではありますが、拾っています。

(斉藤先生) そのような基礎的なマップがあるだけでも良いと思います。地図がないと話だけで終わってしまうと思うので。

(会 長) それでは、せっかくの意見交換の場ですので一人ずつ意見を頂けたらと思います。歌野さんからお願いします。

(副 会 長) 「活かしたい景観」の農地について、課題・取組の方向性欄に「小さな道を無くして大型化」とあります。私は農地の小さな道が好きで景観として良いと思いますが、そのような道をなくしてしまうということでしょうか。

(PCKK 宮崎) 使われなくなっている農地が放置されないように、集約化することで農作業がしやすくなり、農地の荒廃が防げるのではないかという意見でした。

(会 長) 中札内村に荒れた農地はあまりないように思いますが、どうでしょうか。

(委 員) 荒れているとすれば、上札内の方だと思います。売りに出している土地が購入され

ないでそのまま残っていたり、石が多い土地なので生産性が悪く放置されていたりと、そういうことではないでしょうか。

(会 長) 荒廃してしまうよりは、人の手を入れた方が良くはないかという意見が出たということですね。

(副 会 長) 中札内村では、農業重機等の置き場がきちんと整理されていて、他の町よりもきれいだと感じており、そのような部分でも良い村だと感じています。一方で、数年前の景観委員会の際には、森田村長が「東京は、歩いていて緑がたくさんあるので、散策するのが好きだ」とおっしゃっていました。それを聞いた時、確かに市街地を比較すると、自然に恵まれない都市部に比べて、中札内村のような自然に恵まれている地方部では、意識的に緑の整備がされていないと思い、寂しく感じたことがあります。

(会 長) 確かに北海道に来た時、都市部との文化の違いもあると思いますが、庭先とか、人が小まめに整備しているようなきめ細やか緑は少ないと思いました。中札内村でも、そのような緑の整備をこれから頑張って作っていかうということはいえると思います。では、林さん、お願いします。

(委 員) 住環境に緑があるということは、非常に重要だと思います。私が以前住んでいたアメリカの小さな町は、普通の住宅街でもどこを見ても緑に囲まれており、買い物や子どもの散策、図書館等、どこへ出かけるにしても緑に触れられる環境でした。そのような環境が身近にあるだけで、自然と心が安らぐ空間になります。住民が日々の生活の中で、そのような心の安らぎを実感できるということは、とても大事だと思います。そのような空間が町全体にあることによって、緑の町というようなテーマができると思います。

また、見るだけではなく、体験することも重要だと思っています。例えば、文化創造センターには図書館がある他、月に1回程度、コンサートや何かしらのイベントが開催されており、文化創造センターへの往来時には、村の人たちとの会話・やりとりがあり、そのような体験からストーリーが生まれると思います。他には、食事についても景観から生まれる体験があれば良いと思っています。例えば、道の駅を訪れた人が駐車場でご飯を食べるのはもったいないと思っており、道の駅で買ったものを持ち込み、周辺の自然の中でシートを広げて家族でピクニックできるような空間がある等、自然環境で体験をするということをもっと身近に容易にできればと考えています。また、そのような空間がスポットとしてあちこちに分散して存在するのではなく、観光客も体験できるような場所として、ストーリー性を持っていれば良いと思います。

(会 長) ありがとうございます。では片山さん、お願いします。

(委 員) 「大切にしたい景観」に記載されている「農道」は、どの道を指しているのでしょうか。農地を集約化して仕事の効率化を図るという意見が出たことは分かりますが、一

一般的に農道というと、農家さんと農家さんの境界の小さな道のことを指すと思います。また、新札内の方では、昔の土地の境界線の名残のようなあぜ道が残っていたりしますが、そのような道を壊してでも効率化を図るということでしょうか。トラクターが入らないような道は、けっこう味があったり、ちょっとした斜面が良いと感じたりします。農家さんの判断になるので難しいかもしれませんが、そのような道は残してほしいと思っています。一方で、やはり斜面があると、畑仕事はやりにくくなると思うので、中札内村に限らずそのような道はなくなってきており、残したいものがだんだん減っていくのではないかという気持ちもあります。

また、「農道」が私有地の中の道を指しているとする、みんなのものといっても勝手に入られると困るところもありますし、入って良いかの判断がわかりにくいということもあると思うので、どこまで入って良いかのルールづくりも必要だと思います。

(会 長) 村道であれば誰でも入って良いことにはなっていますね。

(委 員) 確かに傾斜は少ない方が、畑作業に関してはやりやすいと思います。

(委 員) 耕地防風林がなくなって景観として困ることは、見えすぎてしまうことだと思います。高規格道路の帯広・広尾自動車道も、西側は良い景観が保たれていますが、高規格道路ができたことによって、東側では近いところの見晴らしが全くだめになってしまっています。このように、開発が進むと景色が変わってしまうことは残念だと感じています。

(会 長) 開発によって失ってしまうものも不可抗力としてあるかもしれませんが、その分何か良いものを作ろうよという前向きなことも考えられますね。

(委 員) 役場ができる時、平屋になるということで、西側は体育館やJAの建物があって景色が開けないので、展望デッキでも作ったらどうかと考えたことがあります。例えば、帯広の森の築山「もりの山」では、帯広市内は木で遮られて見えませんが、日高山脈は綺麗に見えるようになっています。そのような全体が見渡せる見晴らしの良いポイントを町中から遠くない場所に、作っても良いのかなと思います。削られて見晴らしが悪くなるということもあるかもしれませんが、人工的に盛って見晴らしの良いポイントを作っても良いと思います。

(委 員) ジップラインも良いのではないのでしょうか。

(会 長) ジップラインもできそうですね。様々なアクティビティの中でも、遊覧飛行や気球など、多様な楽しみ方があります。では渡部さん、お願いします。

(委 員) ワークショップでは、耕地防風林に関わる話が非常に多かったと感じています。「耕地防風林がどのように中札内村にとって重要なのか」というところを農家さんたちに

理解してもらいながら、また、農業に影響しないような策などについても、村として考えていかないといけないと改めて思いました。私は、不規則に残っている耕地防風林が良い味になっていて、季節によって葉の色が変わる等、季節を感じられる要素でもあると思います。

また、中札内村は花の町ともいわれています。例えば、国道の植え込みについて、現状では、雪が解ければ花が植えられる状態になり、1年生の花が咲き、雪が積もる頃には枯死しているので除雪に影響は与えないというサイクルになっていますが、何か特徴のある花を植えているというわけではありません。私は村の花であるスズランを植えたら良いと思っています。宿根草で背の高いものを植えてしまうと、除雪の際に邪魔になる問題がありますが、宿根草で背の低いスズランであれば、村の花でもあるので、毎年花の季節になればそこにスズランが咲くような道になると思います。国道沿いの花には、けっこうお金をかけていることもあるので、スズランの入手方法の難しさはあるかもしれませんが、全てを変えることは難しいとしても、例えば、国道のこの部分だけ、片側だけ等、植える部分を絞って導入するなど、何か方法があるのではないかと思います。また、「この部分にスズランを植えたいので、役場に持ってきてください」と寄付を募れば、庭先で植えている家庭もみられるので、余ったものをみんな持ってきてくれると思います。そうすることで、毎年捨てて終わりの花ではなく、村の花となっているスズランをアピールでき、スズランが中札内村に咲いているということが、分かってもらえるのではないのでしょうか。

他には、旧国鉄の軌道線跡の中の通りについて、高校生の頃はまだ鉄道があった時代でしたが、3年前に中札内村に戻ってきて改めて道を見ると、道が曲がってちょっと休める空間がいくつかあったり、歩いていくと真ん中に鉄道公園があったりと、ずっと歩いていくと楽しいだろうと思う道でした。しかし、花の季節が来ても、花はほとんど咲いていない状態です。そこに花や小さな緑があると、歩いていてももっと心地良い空間になるのではないのでしょうか。また、駐車場もいくつかあるので、そのようなポイントから歩いて楽しむことができるような気がします。加えて、文化創造センターの駐車場東側は、ある程度広い芝生空間になっていて、冬季は子どもたちが雪山で滑って遊んだりしていますが、もう少し彩があれば、たくさん駐車場もあるので、庭的な感覚で歩くことができるのかなと思います。

(会 長) 花は維持管理が大変という問題もあります。文化の違いでもあると思いますが、本州に行くと、都市部の緑化等、人の手・お金をかけて管理がされていて、よくやっていると思うことがしばしばあります。また、道路沿いにスズランを植えることについて、道沿いの花は花卉の時期が長い花が選ばれますが、スズランは半月しか咲かないので、デザインに工夫が必要かもしれません。

(委 員) 花の専門家を呼んで来て進めていかないと、そう簡単には綺麗になっていかないと
思います。

(会 長) ありがとうございます。では下埜さん、お願いします。

(委員) 前々から斉藤先生がおっしゃっているように、町中の方が課題や取り組むべきことが残っているという気がしています。私も、冒頭で斉藤先生がおっしゃっていたシラカバの問題は気になっていますが、「課題」の内容になるので次回のワークショップの話題になると考え、あえて出さないようにしていましたが、村民がもっと問題意識を持つべき内容だと思います。林さんもおっしゃっていましたが、例えば、札幌のような都市部でも中島公園のような癒し空間があるように、少し歩けば大きな公園があり、朝起きたら散歩ができるような身近な緑空間が大切だと思います。中札内村でいうと、中央公園のようなものももっと町の中にもあれば良いのではないのでしょうか。このような町なかの街路樹や緑の少なさの改善については、村を通して議論をしていきたい内容だと思いますし、それが景観まちづくり委員会の役目であるとも思います。

耕地防風林については、芽室町が積極的に取組を行っており、全部を切るのではなく一部を残してもらったり、防風効果が高いと考えられる植えるべき場所を行政が農家さんに直接指導したりしているという話を聞いたので、参考になるのではないかと思います。看板もそうですが、最終的にはお互いの落としどころを見つけて進めていくことが大事だと思うので、そのように進めていけたらと思います。

また、ワークショップの同じ班に、新札内の「一本の木」近くの農家さんがいらしゃって、農地への立入の話になりました。私も職業柄、写真をアップしたことはありますが、見に来る人の中にはマナーの悪い方もいて、個人ではなく観光バスから降りてきた方が、堆肥場まで入ってきて困ったとおっしゃっていました。最初の景観ツアーの際に、中に入らせていただいた時は好意的に入れてくださりましたが、マナー違反が続くと、せっかく好意で良いと言ってくださっている方でさえも、来ないでほしいというふうになってしまうのではないかと思います。もちろん、観光としてあの場所を広めたいということはあると思いますが、同時にマナーも周知していくべきだと思います。

(会長) 新札内の「一本の木」は1つの象徴的な場所で、あれだけ注目されるとあそこしかないように見えるかもしれないが、村の中を知っていると、大抵のところはどこでも綺麗なもので、他の場所も楽しんでもらえれば良いと思います。もっといろんなところを紹介していけば、一か所への集中的な観光も複数に分散するかもしれませんね。

(委員) 新札内の「一本の木」は村の中でも丘陵地であり、平坦なところよりも絵になるので、そっちの方にみんな行きたくなるという心理は分かります。景観を紹介する側としても、紹介したくなるような景観になっています。

(竹村主査) 新札内の「一本の木」は、景観まちづくり委員会の前進にあたるイメージアップ推進委員会の頃に、看板を立ててアピールしていたことも影響しているかもしれません。担当者が私になった頃に、看板が腐って朽ちたので撤去し、新たに立てるということはしていませんが、そのような経緯があるので、村公認の場所にはなっています。

(委員) 当時、覗くと向こう側が見えるようなシラカバの額縁も作ったこともあり、いつの間にかなくなりましたが、文化創造センターにあったと思います。

(会長) ありがとうございます。では柴田さん、お願いします。

(委員) 話が戻りますが、私も国道沿いのシラカバは通るたびに痛々しく残念に思っています。しかし、過去に強風で何本か倒木したことがあり、安全面を考えるとすれば、難しいこともあると感じました。また、ワークショップでは、シラカバかスギかは分からないのですが、花粉症の話をされていた方もいたと思います。そのような問題が解決できるのであれば、国道沿いに植林することで、景観回復するということも考えられると思います。

(会長) 確かにあのような見た目になってしまうのであれば、シラカバではなく、背の低い樹種で対応することも考えられますね。

(副会長) シラカバの伐採について、電線に接触しないように多めに切る等、景観や木を大切に作る気持ちに配慮がなく、ただの伐採作業のようにになっている切り方が気になっています。

(会長) その土地の所有者が国になると、やはりそうになってしまうのだらうと思います。自宅では、基本木を切らない方針で臨むということで、ガードになるパイプを電線に巻き、木は電線に触れたままにしてもらっています。やはり国有地と市有地は違うのだなと思いました。

(PCKK 宮崎) 樹木管理者に北電さんが伐採のお願いをする形になるので、樹木管理者が「こうしてくれ」と一言言えば、その通りになってしまうところがあります。金澤さんがおっしゃられたように、樹木管理者が希望を言えば、電線にパイプを巻いて切らないような方法や、電線の周りだけをうまく剪定する透かしにしたり等、対応してくれると思います。このように、「手はかかるがそうしないとだめだ」と道路管理者がいえば、街路樹もそのようになっていく可能性は非常に高いと思います。

(会長) 開発建設部にお願いすれば良いのでしょうか。

(竹村主査) 1～2度は既にお願いをしている状況ですが、改善はしていません。毎年村から要望を伝える機会があり、その場では伝えているので、間違いなく耳には入っていると思います。

(会長) 開発建設部もシーニックバイウェイの事業をやっているのです、国民の景観に対する声というものは聞いてくれるはずだと思います。

(PCKK 宮崎) 一方で、安全面に対しては非常に厳しく、例えば札幌でもポプラ並木が全て撤去されることになった事例もあります。本当に危険なのかという調査もしてからはなりますが、危険と判断されると、そのような思い切った対応になってしまう事実もあります。もしかするとあのシラカバも、中が腐って空洞でかえって危険で、いつ切っても良いような状態なのかもしれません。その辺りの経緯は確認する必要がありますね。また、柴田さんがおっしゃられたように、強風による倒木の影響を考慮して、安全に振り切った対応になってしまうこともあります。その辺りはきちんと整理したうえで議論を進める必要がありますね。

(委 員) 話が変わりますが、北海道では、桜の時期はゴールデンウィーク辺りで、ちょうどその頃にピョウタンの滝を訪れたことがあります。その時、桜の花が咲いていて、「この時期でもこんな花が見られるのだな、このような景観を見られるなら来てよかったな」と感じました。確か、園地内だったと思います。そのような寒冷地特有の意外性というか、来てよかったと思えるような場所があれば良いと思います。

(会 長) そのような季節を感じられる景観づくりは大切ですね。

(PCKK 宮崎) そういえば、以前はピョウタンの滝に滝見台があったと思いますが、なぜなくなってしまったのでしょうか。

(下浦課長補佐) 朽ちてしまい、危険性が生じたので撤去しました。

(会 長) また作ろうという話にはなっていないのでしょうか。

(下浦課長補佐) 残念ながらありません。

(委 員) 岩が脆いという話も聞いたことがあります。

(会 長) 意見をいただきありがとうございます。宮崎さん、ここまでで何かありますか。

(PCKK 宮崎) ワークショップや今回の議論でも、町なかの緑については多くの意見があったと思います。一方で、他地域では必ず出るような、建物の色や形に関する意見はみられず、珍しいと思いました。

(会 長) 他地域だと、誰の目にもとまるような奇抜な色や形の建物が1つはあると思いますが、中札内村には、まだ劣悪な建物が少ないからではないかと思います。しかし、放置していると、中札内村でもいずれそのようなものが出てくるのではないかと思います。中札内スタイル住宅建築基準という奨励金が出る基準は定めていますが。

(PCKK 宮崎) 中札内村には都市計画がなく、都市計画に代わるまちづくりの方向性を示すものが

景観計画の1つの役割であるため、基準を定めるような機能を持たせることも十分考えられるのかなと思います。

また、町中の育てていきたい景観として、どのようなものがあるのかは考えていく必要があります。例えば、町の真ん中には大きな緑があるべきで、そこにたどり着くまでの道が緑で繋がっているべき等、施設単体ではなく地区景観やエリアで考え、まちづくりの方向性を定めていけたらと思います。

(会長) 今回のワークショップでは、「大切にしたい景観」「活かしたい景観」という聞き方をしたので、課題やネガティブな話はあまりなかった印象でしょうか。

(PCKK 宮崎) 「活かすにはどのような課題があるか」という課題の聞き方は各班でしていたので、そのような課題は色々と出てきています。次回のワークショップは、取組に繋がっていくような意見交換の場にしたいと、取組とそれについての課題がテーマとなってくると考えています。そこに何の要素を入れ込むかというところはまた改めて相談させていただければと思います。

また、軸景観を設定するかどうかについては、これから検討していかなければいけない段階に入ると考えています。国道や高規格道路、札内川は大きな軸で、色々な人が景観に触れる場所となり、村の印象を決めるのに大きな影響を与えるので、重要な要素になるかと思います。また、具体の作戦にもよりますが、軸景観を定義し、「ここは景観として大切なので、景観まちづくりの核とする」というようなことができれば、道路管理者と同じレベルに立つことができると思うので、そのような意味で戦略的に使っていくこともあると思います。

軸景観の検討の中では、今回のアンケートやワークショップの結果を踏まえ、視点場やパスをどのように設定するかを考えることになると思います。私がこだわりたいのは、中札内村特有の緑景観です。防風保安林や鉄道公園周辺、道の駅裏側の緑、六花の森、美術村等、中札内村の緑空間は、村にある草花や樹木が根底に置かれながら、少し文化の香りがするような緑景観となっており、そのような工夫が当然のようになされている村だと感じています。町中もそのような空間にしていくことができれば、ノードとなる拠点が繋がっていき、さらに魅力ある村になっていくのではないかと思います。

— 宮崎 資料2に基づいて説明 —

(PCKK 宮崎) 資料1の最終ページにある業務スケジュールは概要になるので、詳細は資料2を確認していただきたいです。次回の委員会は7月、その次は12月を予定しており、期間が空くスケジュールとなっていますが、12月の委員会までには、各関係機関との協議や調整が必要となるため、このようなスケジュール感となっております。ただ次回委員会までの間にも、場面ごとに意見をいただきながら進めることになると思いますので、引き続きお力添えいただければ幸いです。

また、次回のワークショップは、5月中に開催したいと考えており、村民の方から出てきた意見は一度全て受け止めたうえで、ではどうしていくかということを考えて

いければと思います。なお、どこかのタイミングでパブリックコメントも入ってくるかもしれませんが、それは改めて村さんとの協議の中で決められたらと思います。

(齊藤先生)「景観計画策定の設定等」が7月にできないと、その後どの機関と協議を進めるかというところが定まらないため、次回のワークショップが重要になってきます。このワークショップでは、課題を出すことを主にする形ではなく、あらかじめ課題はこちらで整理しておき、この他に課題はありますかという程度で済ませ、話し合いでは、主に取組の具体的な方法について聞くべきと考えます。例えば、「基準を設けるか、また基準を作ってそれを守ろう」ということを村民が考えているのか。そうではなく、「気持ちの問題であり、自主的な決まりでもやっていける」とするのか、その方向性をワークショップの結果から決める必要があります。一番の正念場になると思うので、次回のワークショップで議論ができるように準備しなくてはなりません。また参加者にどのように説明をするかが肝になってくると思います。そのうえで、委員メンバーの考えも受け止めて、7月でこの方向性で行きましょうという方針づけをしなければなりません。

また、東京や札幌の話も出ましたが、地球温暖化により今の状態が保てなくなるということについて、都市部の方が危機感を感じているように思います。地方部はそれに比べ、のんびりとしている印象を受けますが、実をいうと、農地は非常に人工的な環境です。今日まで営農ができてきているのは本当にすごいことだと思いますが、私はいつまでこの状況が持つのだろうかと不安でなりません。地球環境は刻一刻と変化しており、豪雨・強風・干ばつ等、異常気象が起き始めています。私たちは、農地だけではなく、町も含め、後の世代が生きられる環境を作らなければならず、そのような環境意識を高める必要があります。農家の方に「美しい景観」というところから入っても響くものではなく、「環境意識から出てきたものが美しい景観に繋がる」というストーリーが大切であると思っています。そもそも昔は、見た目のためではなく、みんなが生きながらえるために防風林を作ったのであり、必要な景観でしたが、それを今では伐採する動きが進んでいます。このように危機感をもって環境意識を持つような景観づくりが必要なのだと考えていますが、何十年も積み残してきてできなかったことでもあるので、今まさに取り組むべきことであると思っています。

(会長) 次回のワークショップでは、住民のみなさんと直接コンタクトを取れる最後の場になるので、計画的に各関係機関への協議を進められるように準備をしたうえでのワークショップにしないと、時間が無くなってしまいます。一方的に案を作ることにはできますが、住民の声を聞いたうえでの景観計画案にすることが重要であると思います。

(齊藤先生) パブリックコメントについても、行為制限設定等の検討段階で実施するのであれば意味があるのかもしれませんが、年度の最後に形式的に実施するような形であれば、やる意味はなくなってしまうと思います。

(会 長) タスクフォースの感触はいかがでしょう。

(PCKK 宮崎) タスクフォースでは、耕地防風林の話題で盛り上がり、村内でも様々な意見が出ているようです。

(下浦課長補佐) 耕地防風林は民地なので、規制をかけるのは難しく、誘導するという方向性の方が現実味があると思います。

(会 長) 花と緑のシンポジウムでは、スイスの放牧地は補助金が出るという話がありました。ただ、スイスでは、風景が観光資源の1つとなっており、国としてお金をかけて進めるべき施策とされていることもあるかと思います。農政を担っている地域では、収量の問題もあります。

また、村民の中には防風保安林と耕地防風林の区別がついていない方もいるのではないかと思います。例えば、一列の耕地防風林ではなく、六花亭さんの防風保安林のようなものを良いと感じているのかもしれませんが。

私は1列の耕地防風林の透け感が好きです。耕地防風林の向こう側に白い鳥居が見える場所があるのですが、その透け感になんともいえない美しさを感じます。

(斉藤先生) 耕地防風林は、個人所有のものなので、個人の判断にはなりますが、きちんと守っていかないといけないものです。例えば、一列全部を伐採してしまうのではなく、トラクターが入る部分だけ透いてやるのはどうか等、プロセスを踏むことが必要であり、現実的だと思います。そのようなプロセスをみんなで共有し、「自分の所有するものにはあるが、好き勝手にできるものではない」という意識を持ってもらい、都市計画はないが、景観計画で届け出をして、住民の同意が必要という方向性に持っていくのが良いと思います。中には、厳しい罰則を設けた方が良いのではないかとという人もいますが、中札内村の雰囲気を見ていると、そのようなプロセスを設定してあげた方が合っているのではないかと思います。

(竹村主査) 4月で産業課に異動することになりました。6年間、中札内村の景観に携わってきて、いろいろなことを学んできたと思っています。産業課でも、これまでに培った景観の視点は失わずに発言していけたらと思っています。また、後任は金沢愛という職員になります。異動にはなりますが、引き続き、何らかの形で関わっていけたらと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(会 長) では、以上で終了とさせていただければと思います。皆様お疲れ様でした。

【要旨】

＜ワークショップの結果を踏まえて＞

- ・ 景観資源の整理にパスの要素を加える必要がある。その他にも、旧国鉄の軌道線跡の中の通りが、散歩道や通学路等、生活の中で使われる道となっており、そのパス上には小中学校や文化創造センター、鉄道記念公園があり、村民にとって大切なパスの要素になっている。そのような空間に身近な緑があることが大切であり、「町中にも緑を」という意識が必要である。
- ・ 耕地防風林は守っていくべき中札内村の魅力的な景観要素であるが、一方で個人所有のものもある。全てを切るのではなく残しておける範囲はないかなど、どうやったら残していけるか対策を一緒に考えることが大切であり、そのようなプロセスを踏んで理解を促すことが重要である。またそのような防風林を農地だけに求めるのではなく、市街地や身の回りの緑についても同様に考えていく姿勢を持たなければならない。
- ・ 現状の耕地防風林の状況は、航空写真で把握できるレベルでも良いので、基礎的なマップを整理すべきである。
- ・ 国道のシラカバについては、安全面の調査からあのような伐採がなされている可能性もあるので、道路管理者に確認したうえで、議論を進める必要がある。
- ・ 公益的機能別施業森林の快適環境形成機能で示されている、「農村環境保全林（中札内村独自ゾーン）」の設定方法について確認する。
- ・ 中札内村には都市計画はないが、届け出の提出や住民の同意が必要ということを景観計画で定める等、景観計画の中で、都市計画に代わるまちづくりの方向性を示すことが望ましいと考えられる。

＜次回のワークショップについて＞

- ・ 次回のワークショップでは、課題を出すことを主とするのではなく、あらかじめ課題は整理しておき、話し合いでは、取組の具体的な方法について深く聞きたい。次回のワークショップの結果から、景観計画の方向性を決める必要があるため、次回のワークショップでそのような議論ができるように準備を進めることが重要である。